

# 稜友

*January 2014, No.229*



槍ヶ岳 (撮影 須藤)

新潟稜友会

Home page [http://homepage3.nifty.com/niigata\\_ryoyu/](http://homepage3.nifty.com/niigata_ryoyu/)

## 巻頭言

---

2014年度の月報よりこれまで紙印刷をしていた「月報 稜友」も電子配信1本となった。地方の山岳会として月1回の山行報告を発行しているのは少なく貴重であるとは思っている。個人のブログやSNSなどでいくらでも情報発信が可能な時代ではあるが、山岳会の活動記録としての月報はまだまだ意義のあるモノであって欲しい。近年の山ブームで若年層の登山者は幾らか増えたようであるが、その中で岩登りや冬山を志向する者は非常に少ない。以前はバリエーションルートを新たに始める人の受け皿として山岳会が必要であったと思う。都市部の一部の山岳会は若い人で賑わっているようだが、地方の山岳会はどこも若手が不足しているようだ。私はオフロード登山という文化をととても愛しており、おそらく今後も続けていくと思う。山岳会という組織が登山技術、文化の継承の場となって欲しいと思っている。私は旅から山に興味を持ち15年以上も地べたを這いずりまわる事に喜びを感じてはいるが、それなりに飽きることなく山旅を楽しめている。行きたいルートはまだまだ幾らでもある。時間も体力も必要だが一緒に行ける仲間がいなくてはなかなか山には行けない。今年から新規会員獲得の為の活動として公募山行を始めます。よろしくお願ひします！

(海老名 誠)

次回の巻頭言は大島さんです。お楽しみに！

## 2014年 例会年間予定

---

例会日	担当	例会内容	備考
1月15日(水)		公募登山の準備	
2月19日(水)		公募登山の準備	
3月19日(水)		事故発生時の対応	
4月16日(水)			
5月21日(水)			
6月18日(水)			
7月16日(水)			
8月20日(水)			
9月17日(水)			
10月15日(水)			
11月19日(水)		総会の議題協議	
12月6、7日(土・日)		6日-忘年会、7日-総会	
12月17日(水)			

## 2014年 今月のコラム・巻頭言・編集担当者・原稿締切日一覧

月	今月のコラム(*)	巻頭言	編集担当者	原稿締切日
1月	大島	海老名	大島	1/04(土)
2月	海老名	大島	大島	2/08(土)
3月	金子	小川	大島	3/08(土)
4月	佐藤(孝)	小杉	大島	4/05(土)
5月	設楽	鈴木	関川	5/10(土)
6月	杉田	関川	三木	6/07(土)
7月	須藤	橋本(寅)	関川	7/05(土)
8月	中村	肥后(明)	関川	8/09(土)
9月	橋本(聡)	丸山(和)	三木	9/06(土)
10月	橋本(寅)	三木	小川	10/04(土)
11月	丸山(和)	大西	肥后(明)	11/08(土)
12月	大西	金子	大島	12/06(土)

(\*) 秘湯、レシピ、こだわりの道具、子育てなどなど、各自自由なテーマで執筆。

体験登山的な内容で公募登山、講習会を開催する。

時期	山行内容	担当	予定候補
3月	雪山体験、スノーハイク	金子	八海山
4月	ハイキング	関川	八石山
5月	クライミング体験	海老名	杉滝岩
8月	沢登り体験	海老名	三国川十字峡
10月	トレッキング	金子	信越トレック
11月	初冠雪尾根歩き	金子、海老名	谷川岳

1月中に具体的年間スケジュールを決め、2月にパンフレット、ポスターを作成・配布する予定です。(参加者には保険を入れる。)

## 山行報告

日程	山域(形態)	メンバー
11/23	二子山中央稜(岩登り)	L. 海老名、霜田
12/14	雨飾山(栃の木亭)	佐藤(康)+他同人会
12/15	雨飾山	佐藤(康)+他同人会

12/31	羊蹄山 神社沢	佐藤(康)+他同人会2人
1/1	前目国内岳	佐藤(康)+他同人会2人
1/2	羊蹄山 神社沢	佐藤(康)+他同人会4人
1/2、3	八ヶ岳赤岳～阿弥陀岳(尾根)	海老名、関川
1/3	槍ヶ岳飛騨沢(山スキー)	須藤+他会2人

## 雨飾山(栃の木亭付近)

2013/12/14 天候 曇のち雪

25000 分の 1「雨飾山」

メンバー 佐藤(康)+他同人会多数

山田旅館～栃の木亭 往復

他同人会の雪上訓練に参加してきました。

雪質観察、ビーコン訓練、搬出訓練等々をおこなって下山しました。

佐藤(康)

## 雨飾山

2013/12/15 天候 曇のち雪

25000 分の 1「雨飾山」

メンバー 佐藤(康)+他同人会

山田旅館～栃の木亭～登山道取り付き 往復

雨飾 P2 目指したものの、未だ藪だらけ。

登山道の取り付きから適当に登って降りてきました。

単なるラッセル訓練となりましたが、それはそれでいいかな？

佐藤(康)

## 羊蹄山 神社沢

2013/12/31 天候 曇、雪

25000 分の 1「羊蹄山」

メンバー 佐藤(康)+他同人会 2人

貯水池 8:40～神社沢～通称デルタ～標高 1200m 付近 12:00 頃～貯水池 15:00 頃

先行者のトレースを追い、1200m付近まで、途中 1000m付近での雪の状態は安定。  
800m 迄滑り、登り返しを 2 回行った。時折、お日様が指し、思ったより良いコンデション。  
でも雪は霰交じりの湿雪。ドライパウダーは皆無だった。

佐藤(康)

## 前目国内岳

2014/1/1 天候 雪のち晴れ

25000 分の 1「チセヌプリ」

メンバー 佐藤(康)+他同人会 2 人

新見温泉 8:30?～林道～700m付近～新見温泉 10:00?

除雪最終地点から林道のショットカットを絡めて、700m付近まで。  
ここで風雪が強く、雷鳴が轟いてきたので行動終了。林道へアピンカーブ 568m まで樹林帯を滑る。

そのまま林道を降り、新見温泉でまったりしていたら空は晴れてきた。この擬似好天を掴めば、前目国内岳のピークを踏めたと思うが、温泉が素晴しかったのでそれはそれでよし。

晴れ間の露天を楽しんだ後、12:30 には再び地吹雪が押し寄せた。

天候に弄ばれた 1 日だった。

佐藤(康)

## 羊蹄山 神社沢

2014/1/2 天候 雪

25000 分の 1「羊蹄山」

メンバー 佐藤(康)+他同人会 4 人

貯水池 8:40～神社沢～通称デルタ～標高 1300m 付近 13:40 頃～貯水池 14:30 頃

貯水池では、お日様もさしていたが、霰交じりの雪が降り視界も悪い。  
先行者は無く、先日登った通称デルタの山に向かって右側を 1300m付近まで詰める。  
途中 1000mでの雪の状態は悪く、30cm の間に顕著な弱層が 3 つ (CTM レベル)、新雪も霰交じり、かつトップに立つと雪が割れる。視界も悪いし、とてもオープンな斜面に入りたくない  
ので樹林帯を 800m迄滑り、1 回登り返し、そのまま貯水池に戻った。  
条件のわりには楽しめたが、ドライな雪が無いことが残念な北海道でした。

佐藤(康)

## 八ヶ岳（赤岳～阿弥陀岳）

2014年1月2日-3日

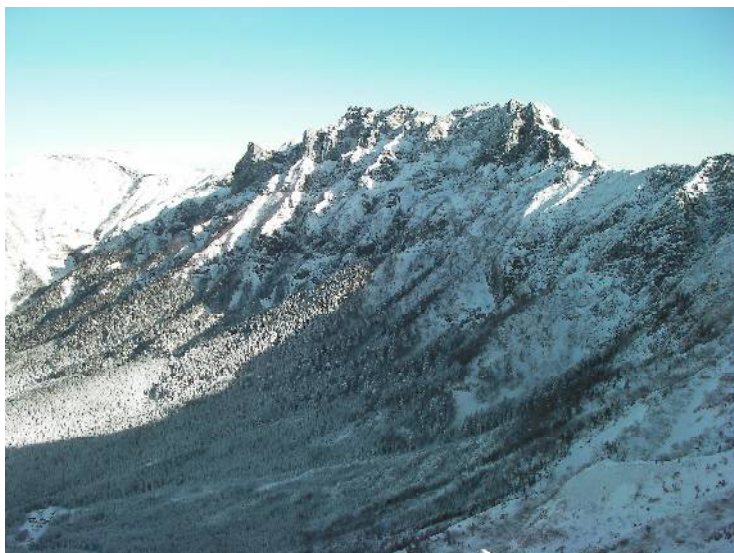
L. 海老名、丸山（和）、関川

2014年の登り初めは八ヶ岳だ。2日早朝に新潟を発ち、美濃戸口からテン場の行者小屋を目指した。超メジャー山域とあって人が多い。美濃戸山荘までは林道歩きでそこから先は南沢を登山道沿いに進んでいく。練習を兼ねてアイゼンを装着して歩く。傾斜はゆるくラッセルも当然ない。さくさく歩くつもりが足がやたらと重い。軽量化を考えなかったザックの重さのせいなのか。アイゼンのせいなのか。はたまた空気が薄いのか。あっという間に海老名さんと丸山さんに引き離されてしまう。樹林帯の中を一人、変化に乏しいダラダラとした道を歩くのがいい加減嫌になってきたところでようやく行者小屋に到着した。天気はどんどん良くなって、出発した時には雲で覆われていた八ヶ岳の峰々も見えるようになっていた。が、ダラダラ道で心が折れ、初めて経験する新潟とは質の違う寒さに負けていた私に景色を楽しむ余裕はあまりなかった。テントを設営し海老名さんの作るキムチ鍋とお酒で体を温めながら初日が終わった。

翌日は2時半に起床。天気予報通りの晴れで満点の星空だ。思っていたよりも冷えこみは厳しくなく体も寒さに少し慣れてきたようで、昨日よりは気分がずいぶんいい。支度を整え5時頃まだ暗い中を出発し、行者小屋のすぐ裏手から延びる地蔵尾根ルートに入る。トレースは明瞭で、樹林帯の中をしばらく歩いていく。木がまばらとなってくるあたりで傾斜は強くなりはじめ、ハシゴも出てくる。アイゼンの刃を引っ掛けないように慎重に登る。まだまだあたりは真っ暗で、振り返ると眼下には八ヶ岳山麓の街の光が輝いておりとてもきれいだ。視線を左に移すと、文三郎尾根に登る登山者のヘッドランプの光も見える。向こうからも私たちのヘッドランプの光が見えているはずだ。2,3か所ハシゴに登り、「赤岳展望荘営業中」の看板を掲げたお地蔵様の前を過ぎ、ナイフリッジを越すと、結構あっけなく6時少し前に地蔵の頭に出た。空はすでに白み始めておりしばし稜線からの眺めを楽しんだあと、赤岳展望荘へ向かった。展望荘へ着くとちょうど宿泊客の朝ごはんの真っ最中だった。その中に混じり、甘酒をオーダーし一本取る。そうこうしている内に日の出の時刻になり、みな外に出て撮影会だ。東の空に日の出と富士山というめでたい構図で写真を取る。そのまま展望荘でぬくぬくしていたかったがそうも行かない。（ちなみに当日朝の最低気温はマイナス12度だったそうだ。）7時過ぎに赤岳頂上を目指して展望荘を出た。強風のためルート上に雪は少なく所々凍っている。結構傾斜はあるがアイゼンの効きはよく30分程度で頂上に着いた。頂上からはぐるっと360度のパノラマ。富士山、南アルプス、中央アルプス、北アルプス、木曾御嶽…遠くは妙高まで見える。これから向かう阿弥陀岳の北稜ルートに2,3のパーティーが取り付いているのも見えた。風は強いものの、こんな晴

天下で登山が出来て年始めからラッキーだ。ゆっくりと眺めを楽しみたかったが、寒いのでそうも言ってもらえない。阿弥陀岳へ出発だ。先頭を行くリーダーが間違っバリエーションルートを下ってしまうが、すぐに誤りに気付いて頂上へ戻り一般ルートへ入る。下り始めは岩稜帯の溝状の中を通り、そこを抜けると見通しのいいつづら折りの道に出て、次から次へと登山者が登ってくるのがよく見える。よくまあこんなにいるもんだと感心するが、阿弥陀岳に向かう登山者は少なく、文三郎尾根と阿弥陀岳へのルートの分岐を過ぎるとガクッと人の数が少なくなる。中岳を越え少し下ると中岳沢のコルで、そこから阿弥陀岳山頂へ続く急傾斜が始まる。遠くから見ると雪壁にしか見えず、あんなところを登るのか…とドキドキしていた。が。取り付いてみると、急なことには間違いないのだが、雪質も悪くなくトレースもしっかり着いていて想像していたよりも登りやすい。ビビりの私もあまり恐怖を感じることなく、意外にあっさりと10時半ごろ山頂に到着した。同じ頃、北稜ルートを登ってきたパーティーも到着する。どこかの山岳会の訓練山行なのか、初心者が数人混ざっているような様子だった。さほどのんびりすることなく彼らはコンテで私たちが登ってきた一般ルートを下っていった。しばらく山頂で休憩し、阿弥陀岳のバリエーションルートをひとしきり眺めた後、下山開始。滑落しないように、途中のイヤラシイ所は後ろ向きになったりしながら、中岳沢のコルまで慎重に下った。コルからは中岳沢ルートを取って、一気に行者小屋へ下り11時半前に到着した。行者小屋付近は大賑わいで雪遊びをしているチビッコ達もいる。一服した後、テントを撤収して南沢の道を下る。帰りもやっぱり南沢の道は単調で長くつらかった。私にとって初めての八ヶ岳だったのだが、晴天にも恵まれ、南沢の歩きを除き、とても楽しい山行だった。

(関川佐紀子)





## 槍ヶ岳・飛騨沢(山スキー)

2014年1月3日

メンバー

須藤正雄、三浦大介(ぶなの会)、松岡祥子(RSSA)

極一部の山スキーヤーにはメジャーになりつつある冬季飛騨沢ワンデイにトライ。

前日は平湯の金山岩(岩ではなく頂上に岩のあるピーク)で足慣らしのつもりが思わぬラッセルアルバイトで体力消耗、どうしようかと検討した結果天気は安定するのは明日だけなのでチャンスを逃さずトライすることになった。

まだ真っ暗な4時過ぎに新穂高温泉をスタート。正月の登山者に良く踏まれたトレースを黙々と進む。昨日までの降雪でトレースの深さは膝位、ワカンでのラッセルは厳しかったことだろう、ありがたく使わせてもらう。…ありがたかったのは白出沢出合までの林道で、林道が終わり登山道に入るとアップダウンの連続、それにしてもルートファインディングが悪い、くねくね曲がりながらのシール登降は辛いものがある。おまけに槍平手前の雪崩危険地帯では雪崩の流路をわざわざルートにしている。河原沿いのスキールートをラッセルした方が良かったかもしれない。

白出沢出合でヘッデンをしまい、滝谷出合で夜明けを迎える。快晴の空の下期待が高まる。槍平には2張りのテント、以外に少ない。ほとんどの槍狙い正月パーティーは下山したようだ。ワカンのトレースは中崎尾根の奥丸山と飛騨沢に別れて付いている。大喰岳西尾根の取り付けからは大喰岳西尾根へのワカンのトレースと飛騨沢へのスキーのトレース(単独)に分かれる。どちらも我々とスタートにタイムラグがあるので先行者は見えない。



広大な飛騨沢を詰めていくと徐々にラッセルは浅くなり稜線が近付く。槍らしきピークは中崎尾根の上部に見えているのだが槍の穂先は稜線に立たないと見えない。視界が利かないと勘違いする人がいるだろう。快晴微風、気温はマイナス 10℃を下回っているが暑いくらい。振り返ると抜戸岳のルンゼ群、その奥には笠ヶ岳が聳え立っている。稜線直下、岩が出てくるまでシール登高が可能、春先ではずっと下からクラストが始まるのだが厳冬期ならではだ。また、飛騨沢上部は常に風が吹き抜けるため雪は比較的安定し雪崩の心配は少ない。アイゼンに履き替え稜線に立つ。時刻は13時半、予定していた冬季初の目されるバリエーションルートを狙うには時間が足りない。確実な飛騨沢滑降に切り替える。

広大な飛騨沢には先行者のシュプールが1本だけ、それも飛騨乗越しからなので我々の足下はノートラック。喚起を上げて一気に槍平まで滑り降りる。どこまで降りてもパウダーが続く、冬季の 3000m ならではだ。滝谷出合まで沢通しに滑り一旦シールを付けて往路の登山道に乗る。降り勾配の曲がりくねったトレースに行きより難儀し白出沢出合に辿り着く。日没間近、急ぎシールを外し林道のボブスレーコースを滑り降りる。夕闇迫る 17 時過ぎ新穂高温泉に帰り着く。行動時間 13 時間、厳冬期ではハードな1日でしたが充実した山行になりました。

翌日は疲れ休みとはいかず乗鞍岳へ。スキー場からメジャーなルートを通ったのですがガスと寒さで予定のルートは断念、まったりとパウダーを滑る。・・・乗鞍スキー場からのツアーコースは入山者が多く林間のルートは荒れたゲレンデのこぶ斜面と化し快適でない、やっぱり人の少ない越後が良い。

(須藤 正雄)

## 今月のコラム

ガスコンロのゴトクが壊れて久しい。山では寅さんや他の方のコンロをお借りしているが、このままではマズイと思ってい続けている。ガスもいいしガソリンもいいなと迷っているが、要はどちらでもいいのだろう。新品でなくてもいいわけで、余っている方がいたら連絡を下さい。単なるお願いになってしまいました。

(大島)

### ● 会費について

☆会員 年会費9,000円 (夫婦会員は2人で16,000)  
保険料 5,000 円～ 月割可 (詳細は金子まで)

☆会報会員 年会費1,000円 (月報の電子配信会員)

- ・ 1 月末までに下記講座への振込をお願いいたします。

郵便局 記号: 11220 番号: 23683431 口座名 : 新潟稜友会

- ・ 不明な点は丸山亮子まで

### ●会員だけの掲示板が出来ました

山行計画、下山報告、住所変更、アドレス変更などに利用してください。  
会のホームページの掲示板ページからもログインできるようになっています。  
会員専用掲示板は一般公開されません。  
公開してもかまわない記事は今まで同様掲示板に投稿してください。

アドレス：<http://8421.teacup.com/msudou/bbs>

携帯電話(iモードなど)からも閲覧、書込み可能です。

ID・パスワードは、知っている会員から聞いてください。

### ●万代市民会館集会室利用方法

最初に来館した人は、4階ロッカー室の稜友会の棚から、当日の日付が書いてある利用許可書1枚を持って1階受付に提出し、必要事項に記入の上、部屋のカギを受け取って会場に入ってください。

### ●必ず守ってください

山行計画書、下山報告共に

金子・海老名

まで、FAX・メール・携帯電話等で連絡の事

次回原稿締め切り 2月8日(土) 担当:大島 まで

### ●原稿形式

形態を( )で

日付は全角、西暦で

地図・地区もなるべくつけてください

鳥海山湯ノ台口(山スキー)

2000年6月3日(土)～4日(日) 2万5千円「湯ノ台」「鳥海山」

メンバー L.

3日 7:00 湯ノ台口 10:00 滝ノ沢小屋 …横書きで

本文

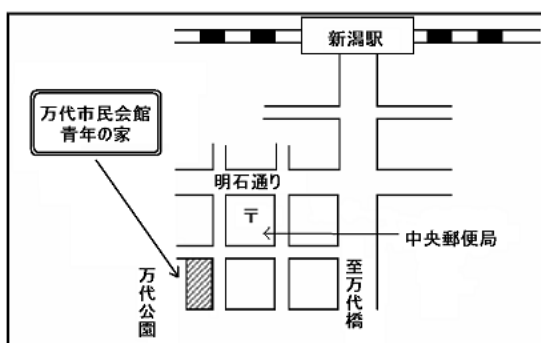
(橋本寅信)…カッコでフルネーム

★表紙に写真を載せて欲しい人は月報担当者にネガ(または写真)を送るか、電子データと

★表紙に写真を載せて欲しい人は月報担当者にネガ(または写真)を送るか、電子データとしてメールで送って下さい。表紙以外で写真を載せて欲しい人は担当者に渡して下さい。テキスト形式が基本ですが、ワードで原稿を送ってもOKです。FDの場合は、プリントアウトしたものを同封して下さい。

## 新入会員募集中！

毎月第3水曜日pm7:30～万代市民会館4階の「青年の家」にて集会を開催しています。気楽に顔を出して下さい。詳しくは、TEL 025-223-0393 金子恒夫



### [編集後記]

新年から月報がメール配信になりました。写真もカラーで鮮明になり、やはりカラーはいいですね。これも時代の流れでしょうか。例会が月1回となった分、会員確保のため公募登山も開始します。試行錯誤の連続となるでしょうが、一步一步焦らず進みましょう。(大島)



月報「稜友」January, 2014 No.229 2014年1月14日発行

発行者 新潟稜友会 代表 金子恒夫

〒951-8081 新潟市寄附町 5006 Tel 025-223-0393

